

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第173号 令和5年2月17日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

・ R4 年度学力向上策ヒアリング報告について

令和4年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会 学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を9月～10月に実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はじめ主幹教諭や教務、研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

江別市の令和4年度全国学力・学習状況調査の結果、江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各小・中学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載しています。

1 令和4年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果

〔平均正答率：単位（％）〕

	小 学 校			中 学 校			備 考
教 科	国語	算数	理科	国語	数学	理科	北海道及び江別市の正答率は、道教委、江別市教委が独自に算出した結果です
江別市	68.5	64.8	68.2	69.4	52.3	50.2	
北海道	64.4	61.1	62.9	68.6	48.9	49.0	
全 国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3	

＜教科に関する調査結果＞

- 小学校6年生は、国語、算数、理科ともに全道、全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、国語、数学、理科ともに全道、全国平均を上回っています。

＜質問紙調査に関する結果の概要＞

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 「ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り（中学校は2年連続100%）、ICTを活用した授業が積極的に行われています。
- 「昨年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、中学校区で一貫した指導が行われており、令和5年度から全面実施される小中一貫教育に向けた取組が進んでいます。

2 調査結果から見られる課題の改善のために

（令和4年度「江別市学校改善支援プラン」より）

- 全国学力・学習状況調査では、小学校6年の国語・算数、理科、中学校3年の国語、数学、理科ともに全国平均を上回りました。領域別では、小学校6年国語の「書くこと」が全国平均を下回り、中学校3年数学の「数と式」「データ活用」、中学校3年理科の「地球」が全国平均を下回りました。

NR T学力検査では、小学4年の国語が全校平均を0.3ポイント下回りましたが、その他の学年・教科はすべて全国平均を上回りました。また、中学2年は全ての教科で全国平均を上回りました。領域別集計

では、小学校3年～5年の国語・算数、中学校2年の全教科で全国平均と同様かそれ以上の正答率となっています。

新学習指導要領の全面実施に伴う「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「カリキュラム・マネジメント」の確立による教育活動の質の向上をはじめ、今後もICT機器の効果的な活用、家庭学習の習慣化、学習サポートの充実等を、工夫して継続する必要があります。

- 児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいるが、望ましい生活リズムの確立や家庭学習の定着に向け、学校と家庭が緊密に連携した取組を継続する必要があります。

自尊意識を問う設問では、小学校6年、中学校3年ともに昨年度を上回っているが全国平均を若干下回っています。教育活動全体を通じて、一人一人のよさや可能性を見だし、それらを発揮できる場を設定し、自己肯定感、自己有用感を高める教育を充実させていく必要があります。

新型コロナウイルスのため、様々な活動制限等によると思われる影響がみられます。今後とも新しい生活様式に対応した教育活動を工夫・充実させる必要があります。

- 中学校区内の小中学校間で、学習規律や家庭学習の習慣化など、児童生徒の状況について情報を共有しています。義務教育9年間で児童生徒に育成したい力(めざす子ども像)を明確にし、系統性を確保した指導の一貫性を確立するとともに、次年度から市内公立学校全校で導入される小中一貫教育に向けた取組を進めていく必要があります。

3 学力向上等の取組

(1) 学校改善プランの検証、作成

学校改善プランの作成は、ほとんどの学校で主幹教諭及び教務主任が中心となって作成しています。また、学力向上委員会等の特別委員会を設置していない学校がみられますが、既存の教育課程委員会や校務部会等を活用して作成しています。学校改善プランを実効あるものにするために、その学校の児童生徒の実態に応じた教育課程の編成や短期及び中・長期的な検証サイクルを活用し、継続的な学力の向上を図るよう働きかけていきます。

(2) 小中一貫教育の全面実施に向けた取組の状況

令和5年度からの小中一貫教育全面実施に向け、どの学校も連携会議の回数を多く設定し、担当の主幹教諭や教務主任間の連携がさらに密になっています。それに伴い、職員の意識も高くなっており、各部会(分科会)では、次年度に向けての具体的な取組について話し合われました。

① 具体的な内容

どの中学校区とも「めざす子ども像」及びサブ目標の設定を終えることができました。また、学校改善プランの交流、中学校教師による出前授業、学習規律・家庭学習の交流等も行われ、小中共通のスタンダード(学習規律・学校生活)も今年度中にどの中学校区でも確立し、小中一貫した指導が行われます。

② 6年生の中学校体験学習

各中学校区では、小学6年生の授業体験や部活動体験を行いました。また、児童会・生徒会合同の活動(あいさつ運動)や小中学生合同の活動(清掃活動)を計画・実施している学校がみられました。

③ 系統的な指導

各中学校区では、全国学力・学習状況調査結果及びNRT学力検査結果の交流が行われ、重点的に指導する領域等の交流・分析が行われました。そのうえで、江別市小中学校教科系統表をもとに、各中学校区で重点指導項目を整理し、系統的な指導を行うよう準備が進められました。

(3) ICT機器の活用

ICT機器については、小中学校ともに、大型多機能ディスプレイとデジタル教科書、タブレットを中心に日常的に活用されています。タブレットについては、グーグル・クラスルームやグーグル・フォーム、ジャムボード、スカイメニューなどの利用が多く見られました。また、ICT活用のための研修をすべての小中学校で実施しており、GIGAスクールサポーターの来校する日に、毎回ミニ研修を行っている学校もありました。

今年度から1・2年生にもタブレットが配備され、各小学校では学年に応じた効果的な活用方法を検討しています。